■平成２２年度　議会運営委員会行政視察報告

委員　　山　田　省　吾

議会運営委員会では、11 月 16 日から 18 日までの３日間、東京都に事務局のある全国市議会議長会、滋賀県大津市、福井県福井市、石川県金沢市を行政視察しました。

全国市議会議長会

全国的な議会をとりまく動向について

全国市議会議長会

16 日は、全国市議会議長会事務局で議会改革の全国的な動向などについて、高橋調査広報部長より説明してもらいました。昨年度の調査活動でまとめた資料を見ると、議会改革の内容としては、議員報酬の削減や議員定数削減の取り組みが目に付きましたが、市政を考えたときに、そのことがよい方向なのかどうか疑問を感じました。また議会の広報活動では、障害者に対する議会施設などのバリアフリー化や議会の傍聴に親子あるいは乳幼児同伴で傍聴できるように配慮している議会も増えてきているとのこと。市議会議員定数に関する調査結果を見ると全国 806 市中、法定上限数未満を議員定数としている市は 667 市で、減員数はさまざまとなっています。なお、国の動きとしては、議員の法定上限数を削除する方向で検討しているようです。このように、全国市議会議長会の調査活動の資料は議会活動に生かせるものと感じました。

滋賀県大津市

議会運営について

17 日は、大津市の議会運営について行政視察しました。大津市は議会活性化に対する取り組みとして、議会活性化検討委員会を設置し、議会の年間スケジュールの作成を決めており、議員・執行部ともに計画を立てるのに役立っています。一般質問は一括方式に加え、一問一答方式を行っていましたが、本年２月定例会より試行として分割方式を取り入れており、質問者がどの方式で行うか選択できるようになっています。分割方式は、大項目別に質問・答弁を繰り返し行う方法で、８月定例会では分割方式で行った議員が過半数いたとのこと。本年の活性化検討委員会では、「議会版事業仕分け」「政策立案機能の強化」「議

大津市議会

員定数」の３項目を調査し、協議しており、どのようなまとめになるのか結果を注視したいと思います。

福井県福井市
議会運営について

次に、福井市を行政視察し、議会改革の取り組みについて勉強しました。議会の広報活動では、「声の市議会だより」を福井県視覚障害者福祉会に依頼して作成し、視覚障害者に配布しています。また一般質問の内容を地元紙に一人ひとりの顔写真入りで掲載し、市民に対する広報活動を行っており、傍聴者の増につながっているものと感じました。本年６月には議会改革特別委員会を設置し、議会基本条例制定に向け検討しているとのことでした。

福井市議会

石川県金沢市
議会運営について

18 日は、金沢市を行政視察しました。議会広報活動で行っている議会だよりの特徴は、視覚障害者にわかるよう、平成７年４月より点字版を１回 120 部発行していることです。議会だよりの内容を見ると、２～３面に「本会議の発言から」と書いた大見出しが載っていて、その後に質問と答弁が載っています。長岡市との違いは、質問者の顔写真がないこと、関連項目別にいくつかの見出しを作り、その中に１問ずつ質問と答弁を項目別に載せてあること、最終ページに質問者別にすべての質問項目が載っていることで、わかりやすいと感じました。

金沢市議会

今回の視察は、初日に全国市議会議長会事務局で全国市議会での議会改革の動向、特色ある議会施設の取り組み事例、障害者に対する議会施設のバリアフリー化に向けた動き、また議員定数に関する調査結果などを研修した後、大津市、福井市、金沢市で、それぞれの市の議会運営のやり方、議会の活性化、議会改革に向けた特徴ある取り組みなどを視察できたことは、今後の長岡市の議会活動に生かしていけるものを感じました。

■平成２２年度　総務委員会行政視察報告

委員　　藤　井　達　徳

福島県福島市

新庁舎について

福島市役所

福島市は現在、老朽化した市庁舎の建て替えを行っており、10月末に東棟が完成し、平成23年１月のオープンを目指し準備を進めています。（１）新庁舎の概要・特色（２）市民利用施設の活用（３）市民手続きのワンストップサービス等について視察しました。新庁舎は、東西２棟からなり、東棟は９階建て。転入･転出や出生などに関わる複数の手続きが１カ所で行えるワンストップサービスを１階総合窓口で展開します。この総合窓口のコンセプトには、「市民を待たせない、歩かせない」「手続きの網羅」「安心・快適な窓口」を掲げています。特に、手続き漏れをなくすために職員が必要な制度やサービスの内容を積極的に説明することや、案内･誘導を担当するフロアマネージャーを常駐させるなどの工夫が計画されています。一方、平成24年度完成予定の西棟には、市民が気軽に利用でき、交流活動を展開できる市民利用施設や、誰もが利用しやすい傍聴席など、開かれた議会の具現化に向けた検討がなされていました。

宮城県石巻市

新庁舎の中心部への移転について

石巻市は、ＪＲ石巻駅前にある百貨店の建物を寄付により譲り受け、およそ30億円の改修費をかけて平成22年３月に新庁舎として開設しました。ピンク色の外壁やエスカレーター、立体駐車場はそのまま活用。５階の展望レストランを来庁者の休憩所に、６階にあった映画館を議場にするなど既存の設備を生かしています。移転・改修費も土地を購入して新設した場合に比べて３分の１に抑えられており、駅前の既存施設を活用しながら中心市街地の活性化も考えた石巻市役所には、移転問題を抱える全国の自治体から視察が相次いでいるそうです。新庁舎は、１階を市民の利便性を考え、公募による商業施設を配置したほか、総合案内や住民票･印鑑証明の自動交付機を設置。２階と３階には窓口担当課を集中配置。５階と６階には多種多様な市民活動の

石巻市役所

支援や集いと交流の場として市民開放スペースを配置し、開庁時間だけでなく、夜間や土日、休日も利用できるように工夫がされています。また、駅前の商店街には市の職員約800人の昼食をあてこんだ弁当屋、うどん屋などもでき、年間１億円近くともいわれる本庁舎職員の昼食代の行方にも注目が集まっています。説明にあたった職員にその経済効果を聞いたところ、「庁舎１階の店舗への波及効果はあったが、昼食時間が45分しかなく、外出は難しい」との答えが返ってきました。

岩手県花巻市

小さな市役所（振興センター）について

花巻市では、小さな市役所構想について視察をしました。市民の公共サービスに対する要求は多様化しており、画一的な手法によって市内全域を対象に行うことには限界も見えてきています。特に身近な地域課題に対する取り組みは、地域住民自ら考え、行動することによってよりきめ細かな対応が可能になると考え、市内27カ所に小学校及び地区公民館単位を基本に小さな市役所を設置しています。具体的には、27カ所の地区公民館が地域振興センターに変わり、従来の生涯学習事業に加えて、新たに身近な地域課題の把握と解決方法の検討と実施を行う地域づくり事業や住民票･印鑑証明書等の発行を行う窓口業務が主な役割です。地域振興センターには、コミュニティ会議が設置され、地域住民との住みよい地域づくりのための連絡調整や情報提供と実践活動が行われています。このコミュニティ会議が地域課題を解決するためにかかる費用については、総額２億円を地域づくり交付金として交付しています。交付金は、均等割、世帯割り、面積割りにより振興センターに配分し、コミュニティ会議で自由に使途を決定できる仕組みになっています。構想の開始から３年。地域住民の評価を伺ったところ「まちを見直す機会ができた」「課題解決がスピーディーになった」などの声が寄せられているとのことです。市民協働を目指す長岡市にとっても参考になる視察であったと思います。

花巻市役所

■平成２２年度　文教福祉委員会行政視察報告

委員　　中　村　耕　一

文教福祉委員会では、10 月 25 日から３日間、静岡県磐田市、愛知県豊橋市、兵庫県明石市への行政視察を行いました。

静岡県磐田市

小中学校のグラウンド芝生化について

磐田中部小学校

磐田市は、平成 15 年度に「磐田市スポーツのまちづくり基本計画」を策定し、重点テーマの一つとして全小･中学校のグラウンド芝生化を設定しています。基本方針として①学校の教育活動に支障のない整備方法の採用、②手間のかからない維持管理方法の採用、③モデル校を中心とした先導的芝生化事業の展開、④地域との連携を含めた将来的な維持管理体制の構築―の４点を定め、芝生化に関わる経費は教育委員会が予算化、芝生造成工事は㈶磐田市振興公社に委託、全体的なコーディネートはスポーツ振興課が行うという体制を敷いています。芝生グラウンドの造成は通常、大規模な土壌改良工事を伴うため、コストがかかります。しかし磐田市では、芝生の材料に市有の天然芝サッカー場やヤマハスタジアムなどの維持管理で発生する「コア」と呼ばれる廃棄芝を再利用することで、この問題を解決しました。現在、全 33 校中、既に 18 校に芝生のグラウンドができています。

愛知県豊橋市

こども未来館「ここにこ」について

豊橋市の中心部に位置する「こども未来館・ここにこ」は、子どもを中心とした、あらゆる世代が集まる複合施設です。愛称の「ここにこ」は、ここに行くと、みんな「ニコニコ」になる、「ここに行こう」との願いを込め、市民公募で名付けられました。基本コンセプトは「ささえる」「ためす」「ふれあう」「あらわす」で、まちなかで子どもを中心にあらゆる市民が出会い、交流し、活動する新たな多世代交流を目指しています。利用者数は、平成 20 年７月の開館以来、延べ人数で既に 100 万人を達成しています。ここにこは全体が三

こども未来館ここにこ

つのプラザに分かれていて、「子育てプラザ」は、０歳から３歳までの乳幼児と、その保護者を対象とし、親子で楽しく遊べる場や、子育て情報等を提供することで、子どもたちの健やかな成長を応援しています。「体験・発見プラザ」は、幼児から小学生を主な対象とし、子どもたちの好奇心や創造性を育むような体験の場です。仕事をテーマにした楽しい遊びやワークショップなどにより、子どもたちが自分の好きなことや将来の夢を発見するきっかけを提供しています。「集いプラザ」は、さまざまなイベントを開催したり、憩いの場を提供することで、幅広い世代が集い、楽しめる、まちのにぎわいの中心となる場です。運営の特色として、部分的指定管理者方式の導入と、ボランティア参画による市民協働型が挙げられます。

兵庫県明石市

福祉コンビニ（障害者就労支援）について

明石市は、障害者の就労を支援するため、平成 19 年 11 月に、障害者を常時雇用する「福祉コンビニ」を庁舎内にオープンさせました。コンビニによる障害者の雇用拡大と障害者の自立を期待する一方、障害者の働く姿に身近に接することにより、来庁する市民や市職員への意識の啓発につながるという効果もあります。ハローワークに求人を出して常時１人以上の障害者を雇用し、食品や文具など一般コンビニで扱う商品に加え、市内の作業所で作られた商品も販売するなど、障害者の就労とともに、障害者団体の販路の拡大や増収を支援しています。障害者が作った品物も扱うコンビニが役所内に設置されたのは全国初とのこと。公募に応じた４社のうち、経営の継続性やコンビニの運営方針、障害者雇用に対する姿勢などが評価され、事業者はセブンーイレブン・ジャパンに決まっています。当初は障害者５人を採用していましたが、現在は身体障害者２人、精神障害者２人の計４人が働いています。勤務形態としては、午後４時間勤務し、時給 770 円。福祉コンビニが障害者の就労拡大のモデルケースになってほしいと関係者の期待を集めています。行政が障害者の就労支援に直接乗り出した意義は大きいと言えます。

明石市役所内の福祉コンビニ

今回の視察は、それぞれの分野で今後の参考となる有意義な視察となりました。

■平成２２年度　産業市民委員会行政視察報告

委員　　丸　山　広　司

栃木県宇都宮市

「ろまんちっく村」について

ろまんちっく村

　初日の午前中は、宇都宮市にて「ろまんちっく村」を視察しました。当施設は、㈱ファーマーズ・フォレストが市から管理業務を受託しています。体験型スローライフの発想から、地域に根ざした活動を展開し、年間100万人が来園する施設となっています。今後の戦略は、「ファームツーリズム」を整備し、地域全体の資源を有機的に連携させる地域バリューチェーンの形成にあります。地域経済活性化のための総合的なプロデュースという点においては、長岡市でも大いに参考になるものでした。

宇都宮市役所

栃木県宇都宮市

うつのみやアグリネットワークについて

　午後は、宇都宮市役所において「うつのみやアグリネットワーク」とその成果について説明を受けました。このネットワークは、宇都宮産の農産物の需要拡大と産業振興を図る目的で設立され、主な事業に新商品・サービスの創出支援、重点品目のビジネスチャンスの拡大、農業者と商工業者の交流促進や消費者への広報支援等があります。この事業の結果、複数の企業・団体から成るプロジェクトチームの連携により、数多くの新商品が開発されました。本事業は、長岡市が行っている「フロンティアチャレンジ」に類似しており、本市においても参考になる事業だと感じました。

宮城県仙台市

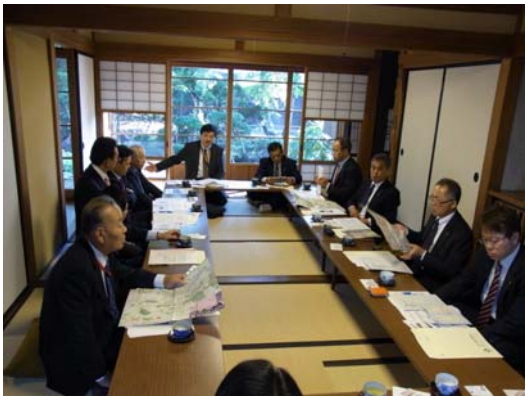
100万人のゴミ減量大作戦（クリーン仙台推進事業等）について

２日目の午前中は、仙台市役所にて「100 万人のごみ減量大作戦」への取り組みについて説明を受けました。仙台市では、ごみの適正排出・減量・リサイクルの促進や生活環境の保全のため、地域のリーダーとして活動する「クリーン仙台推進員制度」を採用しています。平成 22 年５月現在、推進員数は 2,592 人で、多くの市民が事業に参加しており、不

法投棄の巡視、各種研修会の開催や情報提供など、ごみ問題解決に多大な貢献をしています。長岡市においても、環境美化推進員が地域で活動していますが、仙台市の取り組みは、活動内容や人的規模も拡充されており、参考にできる点も多々ある制度でした。

秋田県仙北市

角館の古い町並みを活かした観光戦略について



角館の武家屋敷

午後は、仙北市角館町において観光振興について研修しました。角館は、武家屋敷と歳月を経た樹木が優れた景観を創り出し、大勢の観光客が訪れるまちです。しかし、観光客数は近年減少傾向にあり、伝統的文化財の家屋や老齢化した巨大樹木の維持管理など課題も山積しています。そこで仙北市では、平成 19 年度から平成 27 年度までの９年間で交流人口１千万人を目標とした計画を推進しています。今後は、国内の観光客はもとより外国人観光客をターゲットにした誘客宣伝活動を積極的に展開し、観光情報の発信を促進する必要があります。長岡市も自然、歴史、文化などの資源を最大限に活用し、新たなる観光商品の開発や、観光誘客戦略の創出等を進める必要性を感じました。

岩手県盛岡市

盛岡市民活動支援室の取り組み（盛岡志縁隊等）について

最終日は、盛岡市役所にて市民、ＮＰＯや行政との協働によるさまざまな取り組みについて説明を受けました。盛岡市は、市民との協働によるまちづくりの基盤整備を推進するために「もりおか市民活動支援室」を開設し、運営をＮＰＯ法人へ委託しています。概要説明を受けた後、もりおか市民活動支援室のある「プラザおでって」へ移動し、担当者から業務内容について説明を受けました。支援室では、ミニ講座「まち」の寺子屋の開催、研究会の設置運営など多様な業務を行っています。中でもボランティア組織「志縁隊」は、市民活動・地域活動を盛り上げる組織で、「もりあげ隊」、「伝え隊」、「出会い隊」、「支え隊」と各々が活動を推進しています。こうした協働によるまちづくりの推進に関する取り組みは、今後、市民協働条例制定を目指す長岡市にとっても参考になるものでした。

もりおか市民活動支援室

今回の産業市民委員会行政視察は、農業・環境・観光・市民協働と内容も多岐にわたり、しかも密度ある充実したものであり、有意義な視察であったことを報告いたします。

■平成２２年度　建設委員会行政視察報告

副委員長　　関　　充　夫

10月19日から21日までの３日間、行政視察に出かけました。

埼玉県川越市

中心市街地活性化基本計画について

小江戸の町並み

19日は埼玉県川越市に行き、中心市街地活性化基本計画についてお聞きしました。川越市は小江戸とも呼ばれ、歴史的、文化的資産に恵まれてはいますが、観光客の消費活動率が低く、長岡市同様に中心市街地における事業所数、特に小売業や飲食店に大幅な減少が見られ、にぎわいの衰退が懸念されています。そこで川越市は、中心市街地での回遊性の向上と商業、サービス業の充実を柱に、中心市街地活性化基本計画に取り組んでおり、市庁舎で説明を伺った後、歴史的、文化的地区を実際に案内していただきました。この歴史的、文化的地区の北部と商業等の集積がある南部との２核構造を結び付けて都心核を形成し、活力とにぎわいのあるまちを目指し頑張っています。小江戸と言われるように恵まれた資源もありますが、逆に住宅街が密接しているので、道路整備や交通円滑化対策、まちなか拠点整備などさまざまな問題もありました。中心市街地活性化基本計画においては古さと新しさ、歴史と業務のように相反するものの共生による活性化という川越市らしさに引かれました。

千葉県木更津市

「みなとまち木更津」アクションプランについて

20日は長岡市の寺泊同様、海という資源を生かしたまちづくりに取り組む千葉県の木更津市と鴨川市の２市を視察しました。木更津市では、市庁舎で市民、企業、行政が連携したまちづくりに取り組む説明を受けた後、木更津港や中の島の海辺の整備地区に場所を移し、現地で詳しい説明を受けました。アクアライン開通で東京湾フェリーが廃止となり、さらにアクセス向上で市街地が空洞化し、まちの活力が衰退していますが、コンパクトなまちづくりとともに海という歴史、文化を改めて生かし、にぎわいと活力を創出しようとしています。コンパクトで質の高いまちづくりに向けた地域の持つ歴史、文化の再生というのが印象的でした。

中の島大橋

千葉県鴨川市

道の駅「鴨川オーシャンパーク」について

鴨川市

鴨川市では道の駅オーシャンパークを視察しました。長岡市でも合併により道の駅が３施設あり、オーシャンパーク同様、指定管理者制度が適用されています。施設概要だけでなく指定管理者の運営で道の駅が地域振興の一翼を担っていることも説明されました。長岡市の道の駅同様、観光振興だけでなく地域の振興や地域の雇用に貢献している点が共通していることがわかり、道の駅の今後の活路に参考となりました。

長野県長野市

中心市街地活性化基本計画について

21日は長野市で中心市街地活性化基本計画について視察しました。長野市は人口減少や高齢化、地価公示価格の下落、郊外型大型商業施設の立地に加え、中心市街地の歩行者・自転車通行量の減少など、にぎわいの喪失に苦悩していました。中心市街地活性化基本計画では、長野の個性を生かす視点を取り入れ、門前都市ながの～心潤う歴史と文化がにぎわうまち～をテーマに方針と目標が設定されています。市庁舎で説明を受けた後に長岡市の市民センターに当たる「もんぜんぷら座」で現場説明もしていただきました。市民センターと似た施設でありながら、１階には食品スーパーが入居し、にぎわっているのが目に付きました。このもんぜんぷら座から始まった長野市のまちづくりは、長岡市の中心市街地活性化基本計画に見られるようにフォローアップ体制、評価体制など、きちんと推進体制がつくられている点が目を引きました。

長野市役所

４カ所の視察中、３カ所がまちなかのにぎわい創出に関連した視察となりました。共通していた点は、おのおのの市が持つ固有の歴史、文化を再資源として生かし、コンパクトな質の高いまちづくりに頑張っていることでした。長岡市においても中心市街地活性化基本計画が推進されている中で、にぎわいの創出やまちなか整備の点で十分に参考になりました。